



北光だより

甲府市立北新小学校
令和6年1月24日
No. 9
校長 雨宮 秀樹

元日に起きた能登半島地震，2日に起きた羽田空港の事故など，お亡くなりになった方，被害に遭われた方のことを考えると，胸が張り裂ける思いです。北新小学校児童会でも，「今，自分たちに出来ることは何だろうか」と考え，山梨県児童・生徒連絡協議会と連携し，「能登半島地震義援金活動」に取り組むことにしました。どうぞ，ご協力をお願いいたします。

羽田空港での事故では，旅客機の乗客・乗員の人命が守られたことが「奇跡の18分間」と言われています。日頃の訓練の大切さ・客室乗務員の的確な判断・最後に避難確認を行った機長の責任，そして，乗客同士が声を掛け合ったり避難指示に従って行動したりする姿には，海外からも賞賛の声が集まっています。学校でも，万が一の事態に備えて常に危機管理体制を見直すこと，日々の安全確保・避難訓練の大切さなどを，改めて確認していきたいと思ひます。



こだまミュージック

こだま学級では，県立支援学校に勤務されていた山

本久美子先生を中心とし，幾人もの方にお出でいただき，「こだまミュージック」を行っています。本年度は，1学期2回・2学期3回・3学期1回と，年6回のご指導をいただきました。

本年度最後となった1/19（金）には，ラップのリズムに乗って身体表現をしながら「お正月に食べた料理」を振り返ったり，オカリナ・ギター・ボンボ（南米の民族楽器）等の楽器を使った「コンドルが飛んでいく」の演奏を目の前で鑑賞したりしました。冬の季節の歌「雪まつり」と「もちつき」に合わせ，2種類の大きな太鼓でリズムを打ったり，ハンドベルと卓上ベルを使い曲の一部を演奏したりと，全員で合奏も楽しみました。授業の終わりには，音を出しながら落ちてくるメダルを目で追ったり，楽器の振動を指で押さえて音を止めたりもしました。

たくさんの楽器に触れて音の強弱の振動を感じたり，全身を使った動きでリズムを取り身体が熱くなる様子を感じたりと，いろいろな変化に気づき，感覚を研ぎ澄ませていくという体験活動の時間になっています。「こだまミュージック」の時間を，子どもたちも楽しみにしています。



1/6（土）北新地区青少年育成推進協議会による「新春親子の集い」が，4年ぶりに開催されました。風も無く暖かい日射しの中，たこあげ・かるた・コマ回し・羽根つき・餅つきなど，北新小の校庭に大勢の親子が集い，歓声が上がりました。スマホやTVゲームだけでなく昔からの遊びに興ずることができた「思い出のひとつとき」になったようです。

「野球しようぜ！」

大谷翔平選手から贈られたグローブ

3学期が始まり、大リーグの大谷翔平選手より日本全国の小学校へ寄贈されたグローブが、本校にも届きました。1/15（月）、大谷選手から子どもたちへ届けられたメッセージを全校の子どもたちに紹介し、寄贈されたグローブを代表児童へ手渡しました。



以前、岩手県盛岡市を訪れた際、大谷選手の母校である花巻東高校野球部 佐々木洋監督の講演を拝聴する機会がありました。佐々木監督は、「野球が上手い選手を育てる」「甲子園に出場すること」を目的にするのではなく、「野球も出来る立派な人間に育てたい」という思いで指導しているとのことでした。指導者として、教育や技術指導の書籍の他にビジネス書なども読み込んだり、過去に当たり前にしてきた練習の内容を科学的根拠に基づき一つ一つ見直したりしている様子を話されました。講演の中で、大谷翔平選手や、同じく大リーグで活躍している菊池雄星選手が、高校時代に書いたドリームマップなどの紹介もありました。その中には、怪我をしないための身体作りや、自分の目標に向けてどんな練習をするのか等、選手一人一人が自分で考えた具体的な内容が記してありました。また、自身の視野を広げたり幸運を掴んだりするために、頭も心も鍛え、行動や習慣を整え磨いていくための取組も書かれていました。

学校に届いたグローブは、右利き用2個と左利き用1個です。小指の部分には大谷選手のサインが印字されています。贈られた3個のグローブは、早速1日ずつ全クラスを回り、子どもたちが大喜びで触ったり外でキャッチボールに使ったりしています。大谷選手からのメッセージにもあるように、このグローブが、北新小の子どもたちに「夢を与え、勇気づける象徴」となり、充実した人生を送るためのスポーツ等、好きなものや好きなことと出合えるきっかけになることを願っています。

学校関係者各位

貴校ますますご清栄の事とお慶び申し上げます。

ロサンジェルス・エンゼルス・オブ・アナハイムのメジャーリーガー、大谷翔平です。

この手紙は、このたび私が学校に通う子供たちが野球に興味を持ってもらうために立ち上げたプログラムをご紹介するためのものです。

この3つの野球グローブは学校への寄付となります。それ以上に私はこのグローブが、私たちの次の世代に夢を与え、勇気づけるためのシンボルとなることを望んでいます。それは、野球こそが、私が充実した人生を送る機会を与えてくれたスポーツだからです。

このグローブを学校でお互いに共有し、野球を楽しんでもらうために、私からのこの個人的なメッセージを学校の生徒たちに伝えていただければ幸いです。

この機会に、グローブの寄贈をさせていただけることに感謝いたします。貴校の益々のご発展をお祈り申し上げます。

野球しようぜ。

大谷翔平

